

# 「失敗」が 組織を強くする

不確実性の高い今こそ、試行錯誤を繰り返し、新しいことに挑戦していかなければならない。失敗から学び、イノベーションを起こすためにはどのようなマネジメントが必要だろうか。強い組織作りに力を入れている企業から手がかりを探っていく。



### Case 1 P22

株式会社  
サイバーエージェント  
専務執行役員 石田裕子

### Case 2 P24

株式会社Colorkrew  
代表取締役 中村志志

### Close up! P26

Futonto株式会社  
代表取締役社長 齊藤浄一

取材・文 山口雅之  
やまぐち・まさゆき ● 1961年生まれ。  
映像台本や単行本の執筆を中心にラ  
イター活動が続けている

## Interview

東京大学名誉教授

畑村洋太郎

# 失敗を恐れず挑むことが 組織の成長と創造に繋がる

失敗を生かす、と言っても、いざ行動に移すことは、個人でも組織でも難しい。「失敗学」の提唱者・畑村洋太郎氏は「失敗しないことを社員に求めるような会社は、必ず衰退していきます」と語る。失敗から学ぶ文化を組織内に作るヒントを伺った。

## 失敗を通じて得た経験が予想外の事態で役に立つ

——ドラマの主人公が口にする「私、失敗しないので」という決めゼリフが喝采を浴びたように、誰もができれば失敗したくないと思っています。それなのに、なぜ畑村さんはあえて失

敗を推奨しているのでしょうか。

畑村 失敗したくないなら一番いいのは何もしないことです。しかし、それではその人は成長しないし、何も創造できません。新しいことに挑

戦すれば失敗は避けて通れないのです。だから、失敗しないことを社員に求めるような会社は、必ず衰退していきます。

——そうはいっても失敗すると恥をかいたり評価が下がったりします。ビジネス書を読んだり、ケーススタディを学んだりして失敗を回避でき

れば、そのほうがよくないですか？

畑村 確かにどんな失敗も少なからず痛みを伴うので、できれば避けたいというのが人情でしょう。でも、「恥ずかしい」「悔しい」という思いをするからこそ、その失敗を通じて学んだことが血や肉となって、次に生きるのです。